

将来の岩手を担う人材を育成するために
～「いわての復興教育」スタート～

「いわての復興教育」プログラム



平成24年2月
岩手県教育委員会

「鎮魂　そして　未来へ」

形のあるものが震災によって失われた今、形のない歴史や伝統をよりどころとして、復興の狼煙があがっている。

郷土芸能。

すべての命の供養と鎮魂のために、人々は芸能を捧げてきた。震災で犠牲になった多くの方々、そして先祖たちを受け入れ、その前で生き抜くことにより、未来への歩みが始まる。

表紙写真／大船渡市立大船渡中学校　郷土芸能「笹崎鹿踊り」

(第11回全国中学校総合文化祭　岩手大会　H23.8.18～19)

鹿踊りの起源については、様々な説がある。

昔、山野に群生していた鹿たちの秩序ある行動。親鹿の角を振り立てた美しい姿。たわむれては散る一糸乱れぬ様子。それらに感動した人たちが、その動きを太鼓のリズムにあわせて舞踊化したのが始まりと伝えられている。

大船渡中学校では、この由緒ある鹿踊りを地域の保存会の方々から教わり、伝承活動に取り組んでいる。

発行に寄せて

3月11日の東日本大震災津波により、本県は大きな被害を受けました。この中にあっても岩手の子どもたちは本当に頑張ってくれました。小さな子どもやお年寄りの手をひき、肩を貸し避難してくれた子どもたち、避難所で避難された方のため手を真っ赤にしながらかし器を洗っていた子どもたち、枚挙にいとまがありません。

県立高田高校の工藤校長は、支援をしていただいた方へのお礼の中で、「我々はこんな高高生（たかこうせい）を誇りに思います。」と述べています。これは、本県すべての教育に携わる者にとっても同じ思いではないでしょうか。

わたしたちは、このような子どもたちを、地域の、そして岩手の将来を担い、復興を支える人材に育てる責務を負っています。

今般の災害で内外から多くのご支援をいただきました。あらためて、人と人とのつながり、地域での支え合いがいかに大切なものかを知ることができました。

また、学校再開に向けての取組、心のサポートなど、阪神・淡路大震災をはじめ、多くの災害でご苦労された方々の貴重な経験が大きな力になりました。発災後、暗中模索状態であったわたしたちの灯ともなりました。

わたしたちの経験を、そしてこれからの取組を広くお伝えしていくことが、ご支援をいただいたわたしたちの責務であると思います。

「いわての復興教育」は、そのような思いに生かせるひとつの方策として取り組むことができればと思います。

すでに、多くの学校で素晴らしい実践が始まっています。まだまだ困難は続くと思いますが、岩手の教育の復興に向けて、一步一步、歩みを進めていきたいと念じています。

岩手県教育委員会
教育長 菅野 洋 樹

本冊子について

1 目次

発行に寄せて 岩手県教育委員会教育長 菅野洋樹	01
本冊子について	
1 目次	02
2 本冊子の構成と活用について	03
はじめに	04
第1編（理論編）～いわての復興・発展を担う子ども達の育成を目指して～	05
1-0 岩手県東日本大震災津波復興計画	06
1-1 復興教育の意義	08
1-2 復興教育の基本的な考え方	12
第2編（実践編）～「いわての復興教育」／教育活動の実際～	25
事例1 一関市立室根西小学校	26
事例2 北上市立黒沢尻東小学校	28
事例3 盛岡市立城南小学校	30
事例4 山田町立大沢小学校	32
事例5 花巻市立花巻北中学校	34
事例6 釜石市立釜石東中学校	39
事例7 軽米町立軽米中学校	40
事例8 一関市立大東中学校	46
事例9 紫波町立紫波第一中学校	48
事例10 大船渡市立第一中学校	50
事例11 県立一戸高等学校	52
事例12 県立盛岡第三高等学校	54
事例13 県立宮古北高等学校	56
事例14 県立釜石祥雲支援学校	58
事例15 県立宮古恵風支援学校	60
事例16 県立気仙光陵支援学校	62
第3編（計画編）～「いわての復興教育」スタートガイド～	65
3-1 復興教育の視点	66
3-2 学校教育への位置付け	67
【具体例】奥州市立前沢小学校／山田町立山田南小学校／県立大槌高等学校	
3-3 復興教育の全体計画の基本的な考え方	74
3-4 復興教育の年間指導計画の作成	80
3-5 復興教育の単元指導計画の作成	84
【具体例】山田町立大沢小学校／北上市立二子小学校	
3-6 復興教育の関連指導資料	94
【具体例】総合教育センター〈地震と災害〉	
3-7 復興教育の評価、改善	98
【参考文献】	100

2 本冊子の構成と活用について

本冊子は、第1編から第3編までの3編構成としている。

第1編／理論編

はじめに、本県の復興計画並びに推進事業の概要を掲載した。本県の復興を担う「ひとづくり」を進めていくため、教育プログラムを作成・普及し、「いわての復興教育」を推進していくことを確認したい。

次に、復興教育の意義と基本的な考え方から、大震災と津波の実体験を「自分の中にしっかりと通し」、その上で「考えや思いとして自己形成」されていくことを図ることの共通理解をしたい。

第2編／実践編

県内の各学校が、震災津波の体験そのものを教材にして取り組んだ学びの実践や、防災教育の充実・心のケアにかかわる実践の一部を紹介している。理論編で述べている教育内容に沿って編集しており、今後の教育活動のイメージ化を図り、各学校における教育活動の参考としたい。

第3編／計画編

復興教育を位置付けた教育課程の編成の考え方及び手順と方法について、具体例や実践例を紹介しながら提案している。本冊子では、カリキュラムのPDCAサイクルに従って7項目で提案しているが、各学校における実際の編成においては、「いわて型コミュニティ・スクール構想」^{*1}の再構築の意味するところを理解し、自校の現状を踏まえ、必要とする項目からアプローチすることが大切になる。

本冊子をたたき台として、各学校や地域の課題に応じた「いわての復興教育」の推進を期待したい。

涙・嘆き・悲しみを

新たな可能性へ… 未来の輝きへ…

平成23年3月11日(金)午後2時46分

東北地方太平洋沖地震発生

東日本大震災津波

発生日時	2011/3/11 14:46:18
震源地	三陸沖
震源の深さ	24km
マグニチュード	9.0
最大震度	震度7
地震の種類	海溝型地震
死者数	15,853(2012/2/24現在)
行方不明者数	3,262(2012/2/24現在)
負傷者数	8,023(2012/2/24現在)

つらい体験を貴重な体験に
—共に歩む—

震災津波を乗り越え、未来を創造していくために、10年後、20年後の岩手の復興・発展を担う子どもたちを育成することが、岩手の教育の使命

平成23年3月11日午後2時46分、東北地方太平洋沖地震（東日本大震災津波）発生。

百年に一度、千年に一度と言われるこの地震と津波は、人間の想像を超える自然の力であり、前代未聞の甚大な被害を与えた。多くの尊い命を奪い、多くの人々のかけがえない日常の営みと幸せな時間と空間を一瞬にして奪った。

この日、全県土を包んだ大きな悲しみ、光の見えない不安は、忘れることのできないことであり、無念にも命を落とした方々のためにも私たちは忘れてはならない。しかし、ここから少しずつではあっても確実に一つ一つ前へ歩みを進め、その涙、嘆き、悲しみを、「新たな可能性」「未来への輝き」へと変えていくことが、残された私たちの大きな使命なのではないだろうか。

このつらい体験を、貴重な体験として受け止め、力強く生きていくことが私たちには求められており、全ての県民が心をつなげて共に歩むことこそ今後大切していくべきことと考える。そして、これからの時代と社会を担う子どもたちもその一員であり、今だからこそ、この貴重な経験を生かした人間形成を学校教育の中でも担い、進めていかなければならない。